



# 園だより

第3号

平成30年5月25日  
駿河台大学第一幼稚園  
園長 田所 恒子

## 算数・数学科の基盤となる幼稚園教育

日に日に紫陽花の花が色濃くなり、梅雨入りが気になる季節となりました。好天の下、お子様方は、砂場や色水、石鹸など水をたくさん使った遊びを夢中になって楽しんでます。砂や水などの感触を楽しんだり、試したり工夫したりしながらこの時期ならではの学びをたくさん体験しています。この天候が少しでも長く続いて欲しいと願う毎日です。

先日スロバキア共和国のプレシヨウ大学教育学部の先生3名が、幼稚園での算数教育を知りたいと視察にいらっしゃいました。実は、幼稚園教育は遊びや生活を通して総合的に行う教育であるため“教科”はなく、幼稚園教育には“算数教育”はありません。しかし、今回の幼稚園教育要領・学習指要領の改定の柱に、「初等・中等教育の一貫した学びの確立」が挙げられました。「算数・数学科における教育のイメージ」の【幼児教育】には、「遊びや生活の中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感からこれを活用することを通して、数量・図形、文字等への関心・感覚が一層高まるようになる。」と書かれています。そこで、スロバキア共和国の先生方に本園では、小学校以降の数学的な学習の基盤となるための力を身につけるため、遊びや生活を通して数量などに親しみ、関心・感覚を高めることを大切にしていることをご説明し、保育をご覧いただきました。ブランコの交代、しっぽ取りの勝負、椅子の片付け方、製作などの遊びや生活の中で必要性を感じながら数量や図形に親しみ、いきいきと遊ぶお子様たちの姿に感動していました。そして、先生のお一人がサプライズでスロバキアのリズム遊びを教えてくださいました。

また、本園では好きな遊びだけでなく、教師が意図的に機会を作り、数量・図形、文字等への関心・感覚を高める指導も行っています。6月10日の「時の記念日」には、下記のような発達に合わせた指導が行われます。

年少児は、入園から2ヶ月近く経ち、登園から降園までの幼稚園生活の流れが分かってきました。担任に弁当やおやつ、お迎えなど自分の好きな時刻を示す時計の針を書いてもらった腕時計を身につけながら、“時間”というものがあることに気づき、時計に親しみを感じていきます。

年中児には、昨年の経験を生かしながら腕時計作りを遊びの中に取り入れられるように、担任はベルトや文字盤を作る紙素材を環境として用意していきます。さらに保育室の時計の文字盤に印を付けながら、「長い針が印の付いた数字の所にいったら片付けをしよう」と、生活の中で時計を意識する機会を作ったり、生活に時間的な見通しをもたせたりしていきます。

年長児は、国領駅前のウイंक佐野時計店に見学に出掛け、様々な形の時計を見せていただきます。その経験を生かして長針と短針を割ピンで止めた針の動く時計を作り、時計や時間への関心を高めていきます。

小学校1年生の算数では、時刻を表す単位に着目し、日常生活で時刻を読み、時刻と日常生活とを関連付けることをねらいとする学習が行われます。デジタル時計が増え、生活の中でアナログ時計に接する機会が少なくなっている今日、幼稚園での発達に応じたこれらの経験はとても重要です。このように本園では、小学校以降の学習の基盤となる教育を大切にしています。

6月には各学年の保育参観があります。是非お子様がどんなことを楽しんでいるか、どんなことを体験し、学んでいるかをご覧いただければと思います。

今回の幼稚園教育要領・学習指導要領の改定における「算数・数学科における教育のイメージ」(各教科で作成されています)

以下のURLでPDFファイルにアクセスできます。

<http://bit.ly/2KMFYVH>

スマートフォン

からはこちらを

ご利用ください



10まで数えた後「おまけのおまけの汽車ポポー。ポーになったら変わらしましょう」でブランコを交替します。



鬼ごっこの「しっぽ取り」遊びの中でも数量に親しむ体験は多数あります。



生活の中で「椅子を5個ずつ積み重ねて片付ける」これも数への関心・感覚を高めることにつながります。

平成30年度 園内研究の研究主題は『遊びの中から子どもたちの学びや育ちを読み取る —「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして—』です。

幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして幼児が育って行く方向を意識し、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねられるよう研究を進めてまいります。